

# 小児がん地域計画書（近畿ブロック）

平成 25 年 8 月

京都府立医科大学附属病院  
京都大学医学部附属病院  
兵庫県立こども病院  
大阪市立総合医療センター  
大阪府立母子保健総合医療センター  
(順不同)

## 1. はじめに

近畿ブロック（福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）で指定を受けた小児がん拠点病院（以下、拠点病院）は、京都府立医科大学附属病院、京都大学医学部附属病院、兵庫県立こども病院、大阪市立総合医療センター、大阪府立母子保健総合医療センターの 5 施設（順不同）であり、全国 7 ブロック中最多の施設指定を受けた地域ブロックである。京都府、大阪府のように、2 施設が指定を受けている自治体がある一方で、福井県、滋賀県、奈良県、和歌山県のように拠点病院の指定を受けなかった自治体もある。

近畿ブロック内で発生するすべての小児がん患者が最適な医療を受けられるよう、拠点病院 5 施設および小児がん診療病院が連携・協力して体制を整える。

## 2. 現状

拠点病院 5 施設はいずれも高度な小児がん医療を担ってきた実績がある。主として標準リスク患者を診療する小児がん診療病院と協力しながら、再発症例など難治性小児がん患者を近隣地域のみならず近畿ブロック以外の他府県からも受け入れている。とはいえ、従来の連携・協力体制は必ずしも組織的に構築されているとは言えない部分があるため、今後の課題として計画・目標を策定する。

## 3. 地域連携

### 1) 拠点病院・小児がん診療病院の役割分担

拠点病院が担当する地域は、それぞれの施設の周辺地域を中心としながらも、施設ごとに得意とする疾患・病態に関しては地域を問わず患者を受け入れる方針である。

拠点病院 5 施設それぞれの地域連携の方針については、個別に作成する小児がん拠点病院計画書の地域連携の項で詳述されていることから、本項では要点のみ記述する。また、小児がん診療病院（表 1）については、特定の拠点病院と密接な協力・連携関係にある場合も、今後は近畿ブロック全体の協力・連携体制の中で小児がん医療を担う。

表1 近畿ブロック小児がん診療病院

所在地（府県）	施設名
京都府	国立病院機構舞鶴医療センター
京都府	京都市立病院
京都府	京都桂病院
滋賀県	滋賀医科大学附属病院
滋賀県	大津赤十字病院
福井県	福井大学医学部附属病院
福井県	福井赤十字病院
兵庫県	姫路赤十字病院
兵庫県	兵庫県立塚口病院
兵庫県	西神戸医療センター
兵庫県	神戸大学医学部附属病院
兵庫県	兵庫医科大学病院
兵庫県	明石市立市民病院
大阪府	大阪大学医学部附属病院
大阪府	大阪市立大学医学部附属病院
大阪府	近畿大学医学部附属病院
大阪府	国立病院機構大阪医療センター
大阪府	関西医科大学附属枚方病院
大阪府	大阪医科大学附属病院
大阪府	大阪赤十字病院
大阪府	北野病院
大阪府	松下記念病院
奈良県	奈良県立医科大学附属病院
奈良県	天理よろづ相談所病院
奈良県	近畿大学医学部奈良病院
和歌山県	和歌山県立医科大学附属病院
和歌山県	日本赤十字社和歌山医療センター

(順不同)

府下に 2 施設の拠点病院が指定された京都府、大阪府は、以下の通り連携する。

#### ※京都府

京都府では、京都府がん対策推進計画にもとづき、小児がん患者に対する診療体制の強化を行っていくため、小児がん拠点病院連携推進会議が組織された。京都府立医科大学附属病院、京都大学医学部附属病院が協力し、専門性の高い医療実践をしている大学病院として、集学的治療が必要な小児がん例、適切な治療体制に乏しい思春期・若年成人の骨軟部腫瘍例、再発・難治例、造血幹細胞移植を必要とする例、肝移植などを要する例について、ブロック内の医療機関と連携して、小児がん拠点病院に集約化し、質の高い医療を提供する。

#### ※大阪府

大阪府下の大学病院、小児血液・がん学会専門医研修施設による大阪府小児がん連携ワーキンググループ（WG）を組織し、すでに活動を開始しており（本年 2 回の会議を開催した）、今後も年 2 回程度の会議を開催する。それぞれの施設が対応可能な疾患、治療法について情報を共有し、すべての小児がん患者が適切な小児がん医療を受けられるようにする。

大阪府小児がん連携 WG は、以下の 10 施設である（順不同）。  
大阪府立母子保健総合医療センター、大阪市立総合医療センター、大阪大学医学部附属病院、大阪市立大学医学部附属病院、大阪医科大学附属病院、関西医科大学附属枚方病院、近畿大学医学部附属病院、大阪赤十字病院、北野病院、国立病院機構大阪医療センター

●拠点病院 5 施設が主に担当する地域、疾患、病態など

近畿ブロック地域全体を担当することは当然であることから、ここでは施設周辺を含め、主に担当する地域について記載する。また、疾患、病態についても小児がん全般（白血病、固形腫瘍）を診療することは基本であることから、施設ごとに特記すべき疾患、病態を記載する。

※京都府立医科大学附属病院

○主に担当する地域：

京都府、福井県、滋賀県、石川県、岐阜県

○疾患、病態など：

- ・神経芽腫
- ・横紋筋肉腫
- ・骨軟部腫瘍（思春期・青年期腫瘍）
- ・ラブドイド腫瘍など稀な腫瘍

※京都大学医学部附属病院

○主に担当する地域：

京都府、福井県、滋賀県、和歌山県、奈良県

○疾患、病態など

- ・脳腫瘍
- ・骨・軟部腫瘍
- ・肝芽腫（特に生体肝移植）
- ・肺移植（造血細胞移植後肺合併症に対して）
- ・臨床試験、治験参加患者

※兵庫県立こども病院

○主に担当する地域：

兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、高知県など、中・四国東部

○疾患、病態など

- ・骨髄異形成症候群
- ・脳腫瘍

※大阪市立総合医療センター

○主に担当する地域：

大阪府、兵庫県東部、奈良県、和歌山県、中・四国東部。

○疾患、病態など

- ・再発症例を含む脳腫瘍
- ・白血病、神経芽腫、横紋筋肉腫などの再発症例
- ・緩和ケア、終末期ケア
- ・医師主導を含む治験や臨床試験参加希望患者
- ・再発症例を含む AYA 世代骨軟部肉腫患者（特に 15 歳～30 歳）

※大阪府立母子保健総合医療センター

○主に担当する地域：

大阪府、奈良県、和歌山県、中国・四国東部。

○疾患、病態など

- ・臨床試験参加希望患者
- ・造血細胞移植希望患者（再移植希望患者を含む）
- ・EB ウイルス関連 T/NK リンパ腫

2) 地域ブロック内で十分に対応できない疾患及び病態への対応

難治性神経芽種に対する MIBG 治療：金沢大学附属病院放射線科

網膜芽細胞腫眼球温存療法：国立がん研究センター中央病院眼腫瘍科

粒子線治療：重粒子医科学センター病院（千葉市）、

兵庫県立粒子線医療センター（近畿ブロック内）

陽子線治療：県立静岡がんセンター、筑波大学

肺移植：岡山大学、京都大学（近畿ブロック内）

### 3) 連携の具体的な方法

拠点病院5施設は「近畿ブロック小児がん拠点病院協議会」、さらに小児がん診療病院が加わる「近畿ブロック小児がん診療病院連絡会」を組織する。いずれも年2回程度の会議を開催し、連携を強化する。拠点病院間の情報交換はメーリングリストも活用する。

小児がん患者の紹介及び逆紹介人数の把握は地域医療連携室・診療情報管理室の施設間連携を強化して行う。

### 4) 地域連携を進めるための取組

#### ※近畿ブロック全体の計画

近畿小児がん研究会（年1回開催）、近畿ブロック小児がん講演会、施設内症例カンファレンスや回診への相互参加、手術の相互見学

#### ※京都府

京滋小児悪性腫瘍懇話会、小児固形腫瘍フォーラム、  
京都地区小児血液腫瘍研究会

#### ※兵庫県

兵庫県小児血液腫瘍症例検討会、兵庫県小児 Tumor Board、  
多施設医師参加の講演会（随時）  
患者家族会会合

#### ※大阪府

小児がんカンファレンス  
研究会、症例検討会などの共同開催（年2回開催）

#### 5) 長期フォローアップの仕組み

治療サマリー・長期フォローアップ手帳を活用し、患者の転居などに伴う受療医療機関変更に対応する。拠点病院以外の施設で長期フォローアップされている患者の相談には、拠点病院の相談窓口を活用する。

### 4. 人材育成

#### 1) 研修の実施予定

基本的には施設ごとに研修を計画するが、拠点病院による合同研修も計画する。施設内からの参加はもちろん、他の拠点病院・小児がん診療病院にも案内し積極的参加を促す。医師だけでなく看護師、コメディカルを対象とする研修会を計画・実施する。

#### 2) 人材交流の実施予定

施設毎の研修プログラムに沿って、拠点病院及び小児がん診療病院の医師、看護師、コメディカルの若手を中心に相互研修を行うことで人材交流を行う。拠点病院5施設の計画概要は下記の通りである。

#### ※京都府立医科大学附属病院

上記研修希望者の受け入れを通じて、小児がん拠点病院および小児がん診療病院において、人材交流を行うとともに、京都府立医科大学附属病院では、京都大学医学部附属病院とともに、大学附属病院の特性を活かして、若手小児科医、小児外科医の大学院への進学を励行し、基礎および臨床研究を行わせることにより、学位の取得が可能である。

保育士、チャイルドライフスペシャリストなどの非常勤雇用者の短期研修が可能である。



#### ※京都大学医学部附属病院

後期研修中の小児がん症例経験、小児血液・がん専門医を目指した研修、臨床研究・基礎研究を通じた大学院での学位取得など臨床経験やニーズに応じた人材育成プログラムを用意している。

他の拠点病院、小児がん診療病院の研修と連携することも可能であり、研修希望者の受け入れを通じ、人材交流を行う。

#### ※兵庫県立こども病院

地域ブロック内の小児がん診療病院とはすでに長期及び短期の研修医の受け入れを行なっている。拠点病院間の連携については小児がん拠点病院地域連携協議会を通じて、各拠点病院の得意不得意を把握しつつ今後人材交流を図ることを目指すことになり、これからの課題と思われる。当院では上記のごとく、血液腫瘍内科以外での研修、特に診断に欠かせない放射線診断学の分野で希望があれば短期的に研修医を受け入れていく予定である。

#### ※大阪市立総合医療センター

卒後5年以降の医師を対象とした最長1年の短期研修を受け入れている。他院では研修が困難なおもに小児緩和ケア、脳腫瘍、HLA非合致移植や医師主導治験などの特定領域のみの研修を目的としている。その他、卒後5年以降の医師を対象とした3年間のシニアレジデントコースで専門医の養成を行っている。

地域のコメディカル（看護師、社会福祉士など）を対象とした研修、こども療養支援士（日本版CLS/HPS）養成のための研修も行っている。今後もこれらの取組を強化していく。

※大阪府立母子保健総合医療センター

レジデント層の若手医師の研修受け入れ、あるいは他の拠点病院・小児がん診療病院への研修出向を積極的に勧める。

若手医師研修プログラムは、小児血液・がん専門医取得を目指した臨床研修（対象：小児科専門医、研修期間：3年間、年間2名）、および小児がん認定外科医資格取得を目指した臨床研修（対象：小児外科専門医、研究期間：3年間、年間1名）を用意している。

こども療養支援士（日本版 CLS/HPS）認定資格取得のための実習（年間700時間）拠点病院に指定されていることから、実習生を年間1,2名受け入れており、今後も継続する。

## 5. おわりに

拠点病院5施設それぞれに得意分野・特徴があることから、自治体・地域ごとに小児がん診療を担うというよりも、疾患・治療法ごとに得意分野を活かす役割分担が可能と考えている。近畿ブロックにおける小児がん医療の在り方が、わが国における小児がん医療連携のモデルとなるような実績を目指したい。